

日本ヘルスコミュニケーション学会 第3回学術集会プログラム

9月16日(金)(1日目)

	コラボステーション I 2F 視聴覚ホール
13:00~14:40	S1: 危機とコミュニケーション 座長: 宮原哲(西南学院大学) 演者: 永田高志(九州大学病院救命救急センター)、船山和泉(熊本大学)、松永正樹(立教大学)、宮原哲(西南学院大学)
14:50~16:30	S2: 震災とコミュニケーション: 個、コミュニティ、マスの視点から 座長: 中山健夫(京都大学) 演者: 岩田和彦(大阪府立精神医療センター)、人見祐(特定非営利活動法人医療ネットワーク支援センター)、細川貴代(毎日新聞)
16:40~18:20	S3: 口頭発表 座長: 藤崎和彦(岐阜大学) 演者: 池田光穂(大阪大学)、岡田光弘(国際基督教大学)・櫻田美雄(徳島大学)、Gregory Poole(Doshisha University)・Reiko Matsuoka(National College of Nursing)、今村かほる(弘前学院大学)、鬼塚千絵・喜多慎太郎・木尾哲朗・永松浩・寺下正道(九州歯科大学)、脇忠幸(広島国際大学)
19:00~	懇親会(西鉄イン福岡、レストラン「BLOSSO」)

9月17日(土)(2日目)

	コラボステーション I 2F 視聴覚ホール	
9:00~10:40	S4: 医療コミュニケーション研究におけるレトリック分析の可能性 —震災報道を中心として 座長: 杉本なおみ(慶応義塾大学) 演者: 杉本なおみ(慶応義塾大学)、五島幸一(愛知淑徳大学)、青沼智(津田塾大学)	
	コラボステーション I 2F 視聴覚ホール	コラボステーション I 1F 共同セミナー室 A, B
10:50~12:30	分科会 1: ソーシャルメディアとヘルスコミュニケーション—エンパワーメントと信頼を実現する活用に向けて— 座長: 秋山美紀(慶応義塾大学)、中山健夫(京都大学) 演者: 折田明子(慶応義塾大学)、杉山博幸(株式会社メディエイド)、都竹茂樹(熊本大学)	分科会 2: 宗教と医学の対話を拓く: 宗教家による災害での援助活動から 座長: 岩隈美穂(京都大学) 演者: 岩隈美穂(京都大学)、山口洋典(浄土宗應典院主幹、立命館大学)、大下大円(飛騨千光寺、京都大学)

2011年9月16日(金)

13:00~14:40 シンポジウム1 座長:宮原哲(西南学院大学文学部外国語学科)

「危機とコミュニケーション」

1. 永田高志(九州大学病院救命救急センター)
「東日本大震災における政府の震災対応とリスクコミュニケーションに関する検討」
2. 船山和泉(熊本大学文学部情報コミュニケーション学科)
「がん患者の重要他者が体験する「危機」とコミュニケーション」
3. 松永正樹(立教大学経営学部国際経営学科)
「いじめ」という危機に被害者とその周囲の人々が対処する際、鍵となるコミュニケーションおよび人間関係上の要素について」
4. 宮原哲(西南学院大学文学部外国語学科・教授)
「危機コミュニケーション」の質的研究がめざすもの」

14:50~16:30 シンポジウム2 座長:中山健夫(京都大学大学院医学研究科)

「震災とコミュニケーション:個、コミュニティ、マスの視点から」

1. 岩田和彦(大阪府立精神医療センター総合治療科)
「東日本大震災における大阪府こころのケアチームの100日」
2. 人見祐(厚生労働省認定 認定個人情報保護団体/内閣府認証 特定非営利活動法人
医療ネットワーク支援センター)
「避難された方々を対象とした復興支援プロジェクト―“Healthaid”活動」
3. 細川貴代(毎日新聞大阪本社学芸部)
「震災とコミュニケーション:マスメディアの立場から」

16:40~18:20 シンポジウム3 座長:藤崎和彦(岐阜大学医学部医学教育開発研究センター)

口演発表

1. ヘルスコミュニケーションの認識論
○池田光穂(大阪大学 コミュニケーションデザイン・センター)
2. 東日本大震災後のある時期のテレビ画面のヴァジュアル・コミュニケーションを読み解く
○岡田光弘(国際基督教大学 教育研究所)、檜田美雄(徳島大学大学院ソシオ・アーツ・
アンド・サイエンス研究部)
3. 災害医療コミュニケーションにおけるポライトネス・ストラテジー
○Gregory Poole(Doshisha University)、Rieko Matsuoka(National College of Nursing)
4. 被災地域の方言と医療コミュニケーション
○今村かほる(弘前学院大学・文学部)
5. 研修歯科医と模擬患者間の会話分析―RIASを用いて―
○鬼塚千絵、喜多慎太郎、木尾哲朗、永松浩、寺下正道(九州歯科大学 総合診療学
分野)
6. 模擬医療面接における修復の放棄
○脇 忠幸(広島国際大学)

2011年9月17日(土)

9:00~10:40 シンポジウム4 座長:杉本なおみ(慶應義塾大学看護医療学部)

「医療コミュニケーション研究におけるレトリック分析の可能性—震災報道を中心として」

1. 杉本なおみ(慶應義塾大学看護医療学部・教授)
「レトリック(修辞学)とヘルスコミュニケーション」
2. 五島幸一(愛知淑徳大学メディアプロデュース学部長・教授)
「震災報道のレトリック的分析—New York Timesを中心として」
3. 青沼智(津田塾大学学芸学部・准教授)
「メディア(コン)テキストとしての原子力災害報道—「FUKUSHIMA 50」のレトリック」

10:50~12:30 分科会1 座長:秋山美紀(慶應義塾大学総合政策学部)、中山健夫(京都大学大学院医学研究科)

「ソーシャルメディアとヘルスコミュニケーション—エンパワーメントと信頼を実現する活用に向けて—」

1. 折田明子(慶應義塾大学政策・メディア研究科・特任講師)
「ソーシャルメディアを介した助け合いと信頼性について—匿名だからこそ助け合える?—」
2. 杉山博幸(株式会社メディエイド・代表取締役)
「日本版 Health2.0 プラットフォームとしての患者交流コミュニティサイト」
3. 都竹茂樹(熊本大学政策創造研究教育センター・教授)
「ソーシャルメディアを活用したメタボ対策の効果—Face to Face のコミュニケーションとの比較から—」

10:50~12:30 分科会2 座長:岩隈美穂(京都大学大学院医学研究科)

「宗教と医学の対話を拓く:宗教家による災害での援助活動から」

1. 岩隈美穂(京都大学大学院医学研究科・准教授)
「宗教と医学との対話を拓く:コミュニケーションの役割」
2. 山口洋典(浄土宗應典院主幹、立命館大学・准教授・災害復興支援室事務局)
「喪失の時代における仏教者と死者とのコミュニケーション回路とは」
3. 大下大円(飛騨千光寺、京都大学大学院医学研究科)
「宗教と医療をつなぐスピリチュアルケア」